



**Sr.池崎の**

**ブラジルから**

**Boa tarde!**

(ボア タールジ! : こんにちは!)

**第5回目 7月10日(土)~7月16日(金)までのレポート**

## 7月10日(土) 学校地域連携

今日は、土曜日ですが仕事です。クリチバ市で大きな成果をあげている学校地域連携の実践校を訪問するためです。訪問校は、幼稚部～8年生まで約2100人が在籍する2部制の学校です。

数年前、国の調査から子どもたちの非行の原因の一つが、子どもたちに自由時間が多いことであるという結果がでたそうです。そして、子どもたちの非行防止に地域の人々の協力も得ようということで、学校地域連携が始まったそうです。

毎週土曜日(日曜日の学校もある)、地域の人や大学生の協力によりいくつかの講座を開催し、子どもだけでなく地域の人にも共に参加し、ふれあいを持つとともに子どもたちの指導をしようというものです。地域の人々の協力を得るということでは、豊橋が取り組んでいる地域教育ボランティアのようであり、講座を開設し興味あるものに参加する観点では、中学校での選択授業のようでもあります。ただ、地域の人々も子どもと共に参加するという事は、例がないかもしれません。この学校地域連携の実践後、子どもたちの非行はかなり減少し、どの地区でもかなりの成果がでているようです。

今日は、すでに冬休みに入っているため、開設講座は英語、フットサル、情報処理、図書室の4つしかないそうです。通常は10個ぐらいの講座を開設し、ひと月で延べ6000人ぐらいの参加があるそうです。



右写真上は英語の講座で(44時間完了)、今日が20時間目だそうです。生徒の中に数人、大人の方もいました。上から2枚目の写真はフットサルの試合をしているところです。3枚目の写真は、情報処理の講座です。写真手前の方は75歳だそうです。「どんなことでも興味を持って学習することは大切だと思う」と言っていました。4枚目の写真は、図書室で調べ学習をしていた子ですが、私のメモの日本語に興味がありそうだったので、彼らの名前を私がひらがなで、アケミさんがカタカナで書いてあげているところです。

右写真の4講座以外にも、卓球や各種ゲーム、チェスなどができるように工夫されていました。(左写真)

子どもと大人と共に学習やゲームを楽しみ、子どもたちの健全育成に役立っている良い実践を見せて頂きました。

## 7月11日(日) 市内観光24カ所制覇



今日は、3回目の市内観光バスでの訪問でした。これまでの2回の観光バス、ホテル近隣は徒歩、そしてこちらの方に車で連れて行ってもらったところも含め、今日の4カ所の観光で、市内24カ所の観光がすべて終わりました。

今日の最初の訪問は、Sao Lourenco 公園です(左上写真)。中心に大きな池があり、その周りを多くの人がジョギングしたり歩いたりしていました。また、健康器具が設置されている箇所もあり、そこでは銘々にトレーニングをしていました。私も、池の周りを1周してきました。そして次の訪問地も公園。Tingui 公園(写真左下)です。この公園は、池ではなく Barigui 川が流れ、その両側に遊歩道があり Sao Lourenco 公園同様、ジョギングしたり歩いたりトレーニング器具を楽しんだり、バーベキューをしたりしていました。ブラジルでは、日曜日は商店がほとんど閉店し、ショッピングもできません。その分、ブラジルの人はこのような場所で健康管理に努めたり、家族で楽しんだりしているようです。

次の訪問地は、ウクライナ記念館です。ここの見ものは、右写真にある建物。この建物は、ウクライナ地方の伝統的な様式を継承した八角形の丸天井だそうです。とても印象的で美しい建物でした。



最後の訪問地は、Santa Felicidade というところにあるレストランです。左上写真がその建物です。何でも、席数が3000だか4000あるそうで(聞く人によって異なるのではっきり分かりませんが)、一時はその席数が、ギネスにも載ったことがあるそうです。私も入店に挑戦しようと思いましたが、満席みたいで、ポ語の分からない私にはどう対応すればよいのか全く分からないので、入店を諦めました。でも、お腹がすいていたので、直ぐ横にあるレストランで、食べ放題のビュッフェにしました(左写真下)。食べ放題なのでついお代わりしてしまい満腹状態になってしまいました。

ということで、クリチバ市内観光24カ所をすべて観光し終わりました。

この市内観光は、観光バスに乗ればかなり手軽に観光ができ、ポ語のできない私にも容易に各地を見ることが出来る優れたものでした。お陰で、クリチバの昔、今、自然、くつろぎなどなど、あらゆる観点で勉強させてもらいました。

## 7月12日(月) DEB 訪問

今週は、久しぶりに州教育局に戻りました。今日は、DEB (Departamento de Educacao) という部署を訪問しました。この部署は、主にカリキュラムに関する様々なサポートと研修の企画に関することを行い、担当4人の下に、教科担当を61人かかえています。



ここでは、州の教育方針や教育内容を定めています。学校はそれに基づき各校独自のカリキュラムを作成し、それにあつた教科書を選択し教育活動を行っているという話を伺いました。



左写真が、州作成の教育方針の中にある各学年の学習内容です。これは、豊橋で学ぶブラジルの子が何年生で何を勉強しているのか知る上で貴重な資料になります。国、Parana 州、クリチバ市の教育方針や各学年の学習内容が掲載されているサイトのアドレスを、紹介しておきます。  
国の教育（1～4年、5～8年）方針

[http://portal.mec.gov.br/index.php?option=com\\_content&view=article&id=12624](http://portal.mec.gov.br/index.php?option=com_content&view=article&id=12624)

Parana 州の教育（5年生～高校生）方針

<http://www.diaadiaeducacao.pr.gov.br/diaadia/diadia/modules/conteudo/conteudo.php?conteudo=98>。

クリチバ市の教育（1～4年生）方針、

<http://www.cidadedoconhecimento.org.br/cidadedoconhecimento/downloads/arquivos/3010/download3010.pdf>。

(※ ブラジルの教科書は、学校により異なりますが、何とか手に入る手段はないか模索中です。特に算数・数学については1～8年生までは、そろえたいと思っています。)

話の中で、州と国の教育に関する考え方が異なるということがでてきたので、国としての統一した教育方針の話をしました。すると、①ブラジル国土の広大さの問題、②文化的・社会的に異なる州で同じ教育ができるかという問題もあり、統一した教育の難しさを語っていらっしやいました。また、今回作った教育方針が、政権交代の場合、どのようになるか分からないため、法律で守られるようにする動きがあることを聞き、教育が政権に大きく左右されるブラジルという国の難しさを別の観点からも感じました。

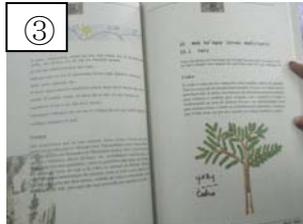
研修に関する業務としては、

- ・年6回の研修会。決められたテーマ（評価、テスト…）について、話し合いをする。
- ・folhas（学習疑問を解決するための授業を作る）という、研修を行い報告する。
- ・図書館や理科室など特別な部屋の担当者への研修
- ・各教科の指導法などについての研修。

などの研修の企画を行っているそうです。

## 7月13日(火) DEDI 訪問

今日訪問した DEDI (Departamento da Diversidade、多様性の部署) は、教育面でさらに多様性に対して対応している部署といえます。この部署の業務は次の5つです。

- ① **読み書きのできない人を無くす教育**：Parana 州には、文字の読み書きができない人が、2004 年時点で 64 万人 (州人口の約 6%強) いたそうです。それらの人たちに教育をし、読み書きできるようにしようという担当です。パラナ州には 399 の市があり、この取り組みを 2004 年から開始し、今年末までに 68 の市で読み書きできない人ゼロ(実際は市の人口の 4%以下)が達成できるそうです。写真①は、身分証明書の署名欄に「読み書きができない」と記されていた人(左)が、自分のサインのある身分証明書に変わった状況(右)を示したものです。
- ② **移動農村や島などの教育**：ブラジルには、自分の土地を持たない人たちが、他人や公の土地に農作物を栽培しながらキャンプ生活し、一定期間生活後、別の土地に移り住むことを繰り返している人たちがいるそうです。この担当は、そのような人たちや島で生活している人など、教育が行き渡らないところで生活している人たちへの教育を行う担当です。写真②は、ここの担当者全員との写真ですが、5つの担当全部で同様な熱烈歓迎でした。
- ③ **原住民への教育**：ブラジル憲法には、原住民たちがポルトガル語と部族の言葉の両方を学ぶ権利があるとされているそうです。ですから、この担当では単に原住民に教育の機会をつくるだけでなく、その種族の言語を守ることも考えられており、種族の言葉とポルトガル語を並記した教科書(写真③)を作成し、教育を行っているということでした。
- ④ **黒人子孫への教育**：パラナ州には、黒人中心の村が 36 あるそうです。彼らはこれまでは一般の学校で学習していましたが、黒人独自の文化や技術を大切にすることも考え、村の中に学校をつくることも考えているそうです。また、彼らの生活を知ってもらうためのブログも作っていて(写真④)、それも見せて頂きました。
- ⑤ **多様な性に対する教育**：ここは、性に関する予防と健康、性同一障害、ゲイ、レズビアン、バイセクシャルなどを学校教育に取り込む担当です。いずれも人権に関わる内容を、単に興味本位に終わらせるのではなく正しい知識を子どもたちに教えていきたいということでした。

今日の部署は、ブラジルの表面的な多様性以外のさらなる多様性に対応するところでした。日本では考えられないブラジル教育の難しさを、さらに感じさせられた一日でした。

## 7月14日(水) クリチバ食事情①

今日は、食事情を紹介します。

ブラジルに来た当初は、ブラジル滞在中は体力勝負だと思い、日本食（特にご飯）大好きなのですが、こちらのものをごんぱって食べようと決心していました。しかし、そんな思いとは裏腹に、ごんぱろうと思わなくても結構食べれちゃうブラジル料理は、私の口に合った料理のようです。

朝は、宿泊ホテルの朝食。写真①はスクランブルエッグ、ソーセージ油炒め、ケーキ(3~4種類)やパン(6~7種類)のコーナー。写真②はハム(3種類)チーズ(2種類)果物(4種類)ジュース(3~4種類)のコーナーです。このようなビュッフェ形式のため、ついつい食べ過ぎてしまいます。ちなみに、写真③が私の朝食です。一日のエネルギーと思い、たくさん食べています。もちろん、パンも食べています（本当はご飯、みそ汁、焼き魚、納豆が最高なのですが）。ところが、ブラジルの方の朝食は意外と少ないです。スイカ1切れとコーヒーとか、トースト1枚・ハム1枚・ジュースのみとか、体の大きさの割にとっても少ないです。理由は、あくまでも想像ですが、夕食が遅くしかも量が多いためだと思います。ちなみに、夜のレストランの開店は7時が普通です。



次は、昼食です。外食になります。注文の仕方で、大きく3種類に分けることができます。まずは、日本のように、メニューの中から自分の好みの料理を注文する食べ方です。2つ目は、朝と同様のビュッフェ形式で、一人いくらという風に決まっています、食べ放題になります。これも、日本人の感覚としては分かります。3つ目は、100gあたりの値段が設定されている場合です。これは、あまり日本では経験できない方法だと思います。

写真④は店の前に表示されている100gあたりの料金(100gで、2.39 レアル)です。店内に入ると、写真⑤のようにお皿を持ち、自分の食べたい料理を選択し採っていきます。つまり、肉の100gも野菜の100gも同じ価値だということです。採り終わった付近に、選択した料理の重さを量ってくれる人がいて料金が計算されます。ここで、飲み物を欲しい場合は、飲み物も注文します。写真⑥はペットボトルの水と一人分(500g位)。席につき食事後、料金を支払い店を出るという仕組みです。重さを後から量るとはいえ、美味しそうなのがあるとついつい採りすぎて食べすぎになってしまいます。そして、野菜・お肉・ご飯など、すべて同じ価値というところが不思議な感覚もします。

## 7月15日(木) DITEC-CETEPAR 訪問

今日は、DITEC (情報管理の部署) の内の、CETEPAR を訪問しました。7月1日に訪問した情報管理の部署 DITEC は CELEPAR というところで、サイトのプログラムソフトを作成管理する技術的な部署でした(ここは、半分民間の情報管理会社)。今日の CETEPAR は、サイトの中身やTV映像をはじめとしたより教育現場に近い内容を扱います(今日の部署は、完全に教育局の部署)。右上写真は、この部署の建物外観です。この部署だけでこの建物1館あります。かなり大きな施設です。



この部署での仕事は、大きく5つの部門に分かれています。①サイト管理、②サイト中間作成、③テレビ局、④通信教育業務、⑤使用のサポート。特筆すべきは、①~③です。



教育局は独自のサイトを持っています。

<http://www.diaadiaeducacao.pr.gov.br/diaadia/diadia/>

そのサイトの中に、教師が活用できる情報を集めた部分があります(右写真)。例えば、教科毎に教師が授業で活用できそうな情報を様々な観点で集めてあります。①の部署は、その情報を教科担当者が調査研究し、このサイト上に掲載していく仕事をしています。例えば、体育については、体育の専門家が教科の関連事項を調査し掲載していきます。自分が学校現場で必要と思う内容を掲載するときもあるし、学校から〇〇の内容を掲載して欲しいと依頼を受け掲載する場合もあるそうです。教科についてかなり精通していないとできない仕事です。

②の部門では、サイト上で使用する絵、アニメ・アニメ台本・写真・サイトレイアウト・音響などをそれぞれが担当し、サイトに仕上げる中間物を作成しています。右写真は、アニメの背景を自分でコンピュータ上に描いている人です。



州の教育局では、独自のTV局を持っています。③はその業務をする部門です。つまり、教育関連番組を自分たちで作るのです。番組の台本作り、制作の準備、撮影、編集に至るまですべて行います。右下写真は、7月の番組表です。1日に12ぐらいの番組が生まれ、午前・午後・夜の3回繰り返し放映されます。



④は、広大なブラジルならではの部門ですが、教師の研修に通信教育を使うそうで、その管理を行っている部門、⑤は、サイト使用に関して学校を訪問しサポートする部門です。

驚くべきことは、どの部門もプロがやっているのではなく、それぞれの特技をもつ教員がここに派遣され、多少の研修を受けこれらの業務を行っているということです。教師のための環境整備が、かなり整えられている様子を伺うことができました。

## 7月16日(金) DEEIN 訪問



今日は、特別支援教育を担当する部署 DEEIN を訪問しました。左写真は、チーフのアンジェリナさんです。

この業務は、次の3つです。①特別支援教育、②飛び抜けた能力の子の教育、③違反を犯した子の教育。（右下写真は、①と②の仕事に関するパンフレット）

①の特別支援教育の話が、特に、興味深かったです。それは、昔は約 1000 の特別支援学級があったが、今は 52 クラスだけになっているところから始まりました。「えっ！こんなに減ってるの？」と思いました。2003 年から国の方針として、特別支援学級を無くし、通常クラスで他の子と一緒に教育することになったそうです。日本でも、「特別支援教育」という概念が出されたとき、そのようなシステムも話題になったことがあったと思います。パラナ州は、まず、いくつかの学校で通常学級で一緒に学習することの効果を 1 年間かけて研究し、よい成果が出たので、他の学校にも広めていったそうです。その代わり、午前には通常学級で学習する特別支援の必要な子は、午後、特別支援対応の教室が開設され、そこにも行くそうです。特別支援学校、午後開設の特別支援対応教室、通常クラスのサポートの担当として、5500 人の専門の教員を採用したそうです。また、通常学級で学習することができるかどうかは医師、精神科担当、教師の協議により評価し、通常学級で対応が困難と認めた子に対しては、特別支援学校で教育するそうです。



②の飛び抜けた能力の子の教育については、その子の能力をさらに引き延ばすためにどのようにすればよいのか他の機関と連携し、その子の能力を最高に伸ばすようにしているということです。この内容については、実際に対応をしている機関がロンドリーナにあるので、そこで見させてもらうことにしました。さらに、③の違反を犯した子の教育では、現在、パラナ州に 19 の施設があり、約 4000 人の子たちが教育を受けているそうです。

実際の学校の様子を見せてもらってはいないものの、特別支援教育において、できる限り特別支援の必要な子も通常の学級で他の子と一緒に教育していこうという姿勢には感心しました。

今晚は、今回のブラジル訪問で大変骨を折って頂いたマリウスの植田さんのお父様が、パラナ州商工連邦主催の会で「GUERREIRO DO COMERCIO」という賞を受賞されるということで、私も表彰式に参加させて頂きました。パラナ州の経済界の重鎮が集まる盛大な会で 2500 名位の人が集まるすばらしい会でした。これもブラジルの一面なのかと驚かされる会でした。



## 追加レポート クリチバ交通事情②

以前のクリチバ交通事情の続報です。

今回の報告の最初は、タクシーです。タクシーも結構走っています。しかも、クリチバのタクシーは全部、写真①の色。車体は違って色は全部同色なのでとてもわかりやすいです。ちなみに、同色でもタクシー会社は複数あるそうです。



前回の最初に「危ない」という表現をしましたが、これか



らは、その点について書きます。

まずは、交通事故。こちらに来て、1ヶ月経たないうちに、3件の交通事故を目撃しました。②はまさにその瞬間です。他にも、外でぶつかる音がしたとか事故処理をしているところをみたこともあります。事故の多さは、クリチバ到着直後から予想していました。それは、運転が粗いと感じたからです。助手席に乗っていても、ひやっとすることがたびたびです(今は不思議と慣れました)。そして、複数車線あるとは言え、1車線分が狭いように感じられます。こちらは比較的小型車が多いということもあるとは思いますが、横の車との間隔が狭く、車体がこすりあうのではないかと思うときもあります。

そして、事故の多い原因につながるかどうか分かりませんが、信号です。写真③では、信号が赤ですが、人々は平気で横断しています。人々は信号よりも、車が来るか来ないかを第一に見ています。信号が赤でも、車が来なければわたります。信号についての2つ目は、信号が見にくいということです。写真③は、



歩行者用信号がはっきり分かりませんが、歩行者用信号がついていない箇所も多いです。また、車用の信号機は歩行者からは見にくい位置にあり、私などは何を頼りに道を渡ればよいのかと思うときもしばしばです。結局は、先ほど言ったように、車が来るか来ないかが大きな判断材料になります。おまけに、車は、人が横断していてもスピードを落としてくれません。ですから、歩行者は横断中にしょっちゅう走らなければならない始末です。日本の歩行者優先はすばらしいです。



最後は、石畳の歩道④です。これは、最近聞いた話ですが、石畳にし、土の部分を残すことで、雨水が土の部分から土中にしみこむようにしているそうです。来た当初は、おしゃれだなと気に入っていましたが、実際に歩いてみると、結構躓きます。写真④は極端ですが、大きくくぼんでいるところもあります。また、くぼんでいなくても石畳がでこぼこで歩きにくいです。ハイヒールのアケミさんと一緒に歩いた時に、アケミさんも「下を見ていないと歩けない」と言っていました。

良い面、悪い面を含め、クリチバの交通事情を報告しました。それぞれの街の特徴を自分の体で感じる事ができ、どれもこれも新鮮でした。